

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 高山陣屋防火設備改修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 高山陣屋管理事務所 管理調整係

電話番号：0577-32-0643

E-mail：c21806@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 104,566千円（前年度予算額：20,000千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県債	一 般 財 源
前年度	20,000	5,573	0	0	0	0	0	5,000	9,427
要求額	104,566	52,283	0	0	0	0	0	47,000	5,283
決定額	104,566	52,283	0	0	0	0	0	47,000	5,283

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

高山陣屋は全国で唯一現存する郡代・代官所であり、史跡及びその構成要素である建物群は貴重な文化財である。現在、高山陣屋の防火設備として、消火器30基、消火栓6基、放水銃5基が配置されており、設備の耐用年数に応じて更新している。

一方、現在使用している消火栓と放水銃の配管は、前者が昭和47年度に、後者が平成7年度に完成しており、令和元年度までに前者が48年、後者が25年経過した。その耐用年数は20～30年とされており（「官庁営繕」等）、いずれも更新時期を迎えている。

また、現在設置されている放水銃5基は、高山陣屋のなかでも道路に近い場所にある御蔵などの建物への延焼防止を目的に設置されている。そのため、御役所や書物蔵などには水が届かず、その機能が十分であるとは言えない。

(2) 事業内容

上記の課題を解決するため、令和2年度に高山陣屋の防火設備の工事設計を実施した。令和3年度および令和4年度にかけて、設計をもとに防火設備工事を実

施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2、県 1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	4,565	設計、監理（国庫 1/2）
工事請負費	100,001	工事請負費（国庫 1/2）
合計	104,566	

※債務負担行為（2年間）限度額：108,600 千円

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県強靱化計画

(2) 国・他県の状況

- ・国宝・重要文化財（建造物）防災・耐震対策重点強化事業（文化庁）
→ノートルダム大聖堂の火災を契機とした緊急状況調査等を踏まえ、必要な防火対策、耐震対策に係る事業について補助を実施。
- ・栃木県足利学校（国史跡・復元建物有）
→放水銃・消火栓設置により、復元建物の全範囲の防火対策有
- ・岡山県旧閑谷学校（国史跡・現存建物有）
→放水銃・消火栓設置により、現存建物の全範囲の防火対策有

(3) 後年度の財政負担

- ・令和3～4年度に防火設備の工事実施予定。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・高山陣屋は県施設であり、県が事業主体となる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
令和4年度までに老朽化した配管を更新し、かつ放水銃を増設することで、すべての建物に放水可能な状態にする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

高山陣屋を維持管理するための環境整備であり、指標は設定できない。

（前年度の取組）

- ・事業活動内容
防災設備工事設計

（前年度の成果）

- ・前年度の取り組みにより得られた事業の成果、今後見込まれる成果
高山陣屋専門家会議において施設の保尊修理において検討を行い、その結果を反映させた工事設計を行う。
この設計をもとに施設を適切に整備し、広く公開していく。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価)	<p>○</p> <p>2019年4月のノートルダム大聖堂、10月の首里城、11月の白川郷の火災を契機に、文化財の防火対策の重要性が顕在化している。また、高山陣屋は県有施設であり、当該設備の修繕等は県が負担している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>高山陣屋の復元整備事業が平成7年度に終了してから25年以上が経過しており、今後も計画的に改修を実施して老朽化・経年劣化等によるトラブルを解消し、安全安心な環境を整備していかなければならない。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>高山陣屋は年間約30万人の来館者があり、そのうちの約4割が外国人である。そして、世界最大級のロコミサイト「トリップアドバイザー」で3年連続エクセレンス認証を受賞するなど、外国人の関心も極めて高い。</p> <p>そのような評価を受けている施設であるからこそ、今後も継続した計画的な改修を実施し、安全安心な施設環境づくりを目指す。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	